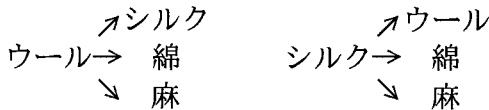


テキスタイル塾講師

麻織物企画設計担当 藤田 直

永年尾州産地でお世話になり、今日があります。私は今一度天然素材を見直した物作り、すなわち創造的天然素材群を作りたいと考えています。この点は尾州テキスタイルデザイナー協会の人材養成事業のテキスタイル塾生とかかわって、一層強く感じました。合成繊維の知識やその応用も大切ですが、ウー



のブレンド素材の再開発、ウールを始めカシミア、アルパカ、アンゴラなどの付加価値が出しやすい素材の研究に加えてシルクに関しても家蚕、野蚕、絹紡糸、生糸、中国、インドなどのタイプと産地を研究し、現状を常に把握することが肝要です。

綿糸についても世界の産地分布を調べてより特色ある素材を把握することが必要ですし、麻モリネン、ラミーなど輸入国別の特徴と特に極細番手の研究などが望まれます。

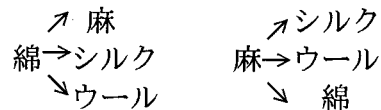
また毎年二回開催されるエクスポフィルでの天然素材に関しての分析で、先ほどの四素材の組み合わせによって新商品開発が十分可能と確信します。

天然素材に関して各産地での染色、整理加工技術、特殊加工などを学べばさらなる改善改革可能であり、新しい素材開発提案ができると思います。

これからの繊維産業は製造業ではなく「創造業」です。FDCルネッサンス骨子の中にもありますように大学と産学官研究などの力もお借りしながら、現場とのコミュニケーションを図り、産地再生の基を築いていただきたいと思います。

人材育成については、環境があまりにも悪過ぎ、経済的に裏づけのない不透明なことも

ル、シルク、綿、麻、素材を徹底分析することが、産地の物作りの原点であると考えます。一番大切なのは「ウール産地としての自覚と自信」が薄らいだ感じさえあり、これで良いのかと、驚くこともあります。100%素材はもとより



あって、これが士気のなさの原因となっています。零細、小企業集団でサラリーマン化した雰囲気の中での仕事では物を創造することはできません。どう改善して行くかは、トップのしっかりした、ポリシーがあって始めて一丸となって進むことができます。

現在の現場の状況を見るに、眼の前の雑事に追われ、落ち着いて考える余裕がなく、つい基礎勉強がおろそかになりがちで、一步前に出ることがなかなかできません。

一步前に出ることができれば、次々に応用問題が出て創造して行く習慣が生まれるでしょう。各社各人がそれぞれの個性を生かした物作りをしていくことが産地を継続、発展させていくことにつながると考えます。

流通においては、素材を本当に理解していただけるアパレル、コンバーターとどう取り組むかが大きなポイントとなります。低価格量販体制方式と、多品種少量生産高付加価値追求方式とは販売方法も異なることは当然で、規模の大小によって難しい問題です。

産地としては後者を一步一步積上げて拡大を図り尾州ブランドを世界に発信すべきであると思います。

『物云わぬ物に、物云わせよ物作り』